

教育改革事務部門管理者会議の開催結果

1. 開催日時：平成29年10月31日(火) 13:00～17:00
2. 開催場所：アルカディア市ヶ谷（東京、私学会館） 5階 大雪
3. 参加者：89名（55大学、1短期大学） 前年度：88名

4. 開催趣旨

教育の質的転換による教育改革が叫ばれて5年目になる。平成29年度からは学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受け入れの方針が制度化され、教育改革の実質化に向けた教育の質向上と質保証が社会から要請されています。知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性の「学力の3要素」を深化・発展させ、問題発見・解決能力を大学全体で如何に育成できるかが問われています。

重要なことは学修過程・成果を可視化する中で、学生一人ひとりがどのように成長しているのかを検証し、教育改善及び教学マネジメントに向けたPDCAを強化することが急がれています。

そこで本会議では、学修成果をどのように検証することが望ましいのか、また、どのような方法で可視化することが効果的なのか、ICTを活用した取り組みの工夫を中心に認識を共有することにした。

5. 実施結果

上記の日程で開催し、参加者が去年より1名増加した。

テーマは『学修過程・成果の可視化・検証とICTの活用』として、教育の質保証としての学修成果可視化のあり方、IR活動を推進するデータ分析ツールの導入、学修ポートフォリオシステムについて認識の共有を図った。

プログラムは、3つの講演として「教育の質保証を目指した学修成果可視化への取り組み」（山形大学：千代勝美氏）、「IR活動に必要なデータ分析ツールの導入とその効果」（上智大学：相生芳晴氏）、「学修ポートフォリオシステム導入・活用等の参考指針」（帝塚山大学：岩井洋氏）を行い、事務局から「私立大学教員の授業改善白書」、「教育への情報化投資の実態」、「情報関係補助金の要望」、「情報セキュリティ対策」についての情報提供を行った。

アンケートによると来年度希望するテーマとしては、IR取り組み、学修成果の可視化の事例、ポートフォリオの事例、クラウドの活用事例、SNS活用の広報・交流事例、教学マネジメントの取り組み、情報セキュリティ対策などがあつた。また、私情協の活動に対する希望としては、セミナー・情報交換会の開催・最新トピックスの情報提供、施設・設備関係補助金要望の強化、研修会の地域開催などがあつた。